



2022年 6月 8日
第211号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集情宣担当

ホームページ

<http://www.ireu-yokohama1.jp/>



これが会社回答を受けての組合員の声だ！！

赤字とはいえ今年度は「大幅な改善」している。GW明けから通勤も戻っている。組合未加入の若手も「ローンが払えない」と言っている。

回答書は心がこもっていない。「20年前の水準に戻った」というが、社員に転嫁している。これまで「先を見通せない」とずっと我慢してきた。

目に見えて売り上げが上がってきている。プラスαの仕事もしている。「少ない」というのが率直な感想。

コロナ禍が始まった2020年より低い。

納得できない回答。経営の責任を私たちに押し付けている。コロナ禍の感染リスクがある中で社員は奮闘している。

コロナ禍が2・3年続いていてこの状況。経営責任ではないか。コストカットが人件費を削ることになっている。経営陣は身を切っているのか。超勤単価が高い管理者が残っている。また必要のない備品も買い替えている。好景気に胡坐をかいていたのではないか。

未加入の方も「この会社に魅力を感じない」と言っている。「組織の再編」によってキャリアプランが描きにくくなった。目標を失っている人が多い。離職につながっている。

1年で1800名も社員数が減少しているのに、平均年齢が変わらない。それだけ若い人も辞めているということ。

団体交渉が「議論」になっていないことが問題。団交の形骸化。回答書も要求の回答になっていない。

回答書は、施策を進める宣言になっている。

少ない。がっかり。言葉も出ない。若い社員の離職が多い。夢が描けない。

定昇カット2の補填がない。コロナ手当もない。誠意を感じない。

回答書が施策の説明になっている。ふざけている。

駅職場の現場感覚では、お客さまはコロナ前に戻っている。

2022年度夏季手当交渉緊急報告集会

6月9日(木)18:30～

JR 藤沢駅から徒歩5分

ミナパーク藤沢6階多目的ホール3



出さない理由を並べる経営姿勢では、今後も出さないのは明らかだ！
全組合員で最後までたたかい抜こう！